

平成20年度事業報告

I. 愛鳥思想の普及啓発に関する事業

1. 第62回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」
2. 第43回全国野生生物保護実績発表大会
3. 平成21年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール等
4. 野鳥保護に関するキャンペーン等
5. 中国トキ保護・増殖支援活動
6. 探鳥会・自然観察会
7. 愛鳥懇話会
8. 図書・愛鳥教育教材等
9. 広報活動
10. バードピア計画

II. 鳥類保護の調査研究に関する事業

1. 受託事業
2. 請負事業
3. 自主調査・研究活動

III. 組織活動に関する事業

1. 会員の拡大
2. 支部との連携
3. 専門委員活動
4. 表彰制度
5. 関係団体との連携・協力
6. 委員会及び本部体制

I. 愛鳥思想の普及啓発に関する事業

1. 第62回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

日 時：5月11日（日）

場 所：東京都新宿住友ホール

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省

後 援：文部科学省・林野庁

概 要： 常陸宮・同妃両殿下のご臨席のもとに、環境大臣、衆参両議長など約300名の参加を得て開催された。式典では、野生生物保護功労者表彰が行なわれた他、沖縄県国頭村立安田小学校と神奈川県秦野市立鶴巻小学校の児童による野生生物保護活動発表ならびに、世田谷区立船橋小学校の児童による愛鳥宣言が行われた。

また、式典終了後、常陸宮・同妃両殿下ご臨席を賜り、下記により愛鳥パーティを開催した。

日 時：5月11日（日）

場 所：新宿住友スカイルーム（新宿住友ビル47階）

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省

内 容： 第62回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」式典終了後に開催した。全国から愛鳥家をはじめ鳥類保護関係者約100名が参加し、野生生物保護功労受賞者を交えて懇談のひとときを過ごした。

なお、式典においては、下記により実施した愛鳥週間野生生物保護功労の審査結果に基づき、受賞者の表彰を行った。

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省

対 象：野生生物保護のために貢献した個人・学校・団体

審査会：2月27日（水）、環境省共用第9会議室

審査員：財団法人日本鳥類保護連盟、環境省、文部科学省、林野庁の各担当官、鳥類の専門家など

愛鳥週間野生生物保護功労受賞者

- ・(財)日本鳥類保護連盟総裁賞：遠藤 泰男(宮城県)、大田 保文(富山県)
- ・環境大臣賞：宮川與四男(北海道)、本間 隆平(新潟県)、岡 徹(沖縄県)、世田谷区立船橋小学校(東京都)、特定非営利活動法人小笠原自然文化研究会(東京都)、大分県野鳥の会(大分県)
- ・文部科学大臣奨励賞：盛岡市立城東中学校(岩手県)、下松市立江の浦小学校(山口県)
- ・林野庁長官感謝状：中岡 禎雄(兵庫県)、富山市立神通碧小学校(富山県)、旭川市台場小鳥の村(北海道)
- ・(財)日本鳥類保護連盟会長賞：松村 直美(群馬県)、島袋 徳正(沖縄県)、東広島市立平岩小学校(広島県)、おとも自然の会(秋田県)、冠島調査研究会(京都府)
- ・環境省自然環境局長賞：山崎 悦子(群馬県)、坪みどり(滋賀県)、矢板市立日新小学校(栃木県)、大阪府立高津高等学校(大阪府)、日南市立潮小学校(宮崎県)、琵琶湖を戻す会(滋賀県)
- ・(財)日本鳥類保護連盟会長褒状：滝沢 直樹(埼玉県)ほか21件
- ・(財)日本鳥類保護連盟会長感謝状：南三陸ワシタカ研究会(宮城県)ほか3件
- ・環境省自然環境局長感謝状：佐藤 幸男(北海道)ほか62件

2. 第43回全国野生生物保護実績発表大会

日 時：12月1日(月)

場 所：中央合同庁舎5号館2階講堂(東京都千代田区霞ヶ関)

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省

後 援：文部科学省・林野庁

対 象：児童・生徒が野生生物保護活動を実践している学校・団体

応募件数：31件(都道府県知事からの推薦)

一次審査会：10月22日(水)

審査員：環境省、文部科学省、林野庁の各担当官、鳥類の専門家など

全国野生生物保護実績発表大会受賞者

- ・環境大臣賞：佐渡市立行谷小学校(新潟県)
- ・文部科学大臣奨励賞：南陽市立小滝小学校(山形県)、千葉県立茂原樟陽高等学校(千葉県)
- ・林野庁長官賞：多摩市立南豊ヶ丘小学校(東京都)、名護市立屋我地中学校(沖縄県)
- ・(財)日本鳥類保護連盟会長賞：三次市立安田小学校(広島県)
- ・環境省自然環境局長賞：薩摩川内市立蘭牟田小学校(鹿児島県)、埼玉県立松山高等学校(埼玉県)
- ・(財)日本鳥類保護連盟会長褒状：岐阜県立岐阜高等学校(岐阜道)、姫路市立姫路高等学校(兵庫県)

なお、下記の受賞校の活動実績を大会記録としてとりまとめ、都道府県および全国愛鳥教育研究会等関係方面に配布するとともに、連盟のホームページにPDF形式で掲載して情報提供に努めた。

3. 平成21年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール等

- 主 催：財団法人日本鳥類保護連盟
後 援：環境省、文部科学省、林野庁
募集期間：平成20年4月1日（火）～10月1日（水）
対 象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、各種学校、高等専門学校に在学中の児童および生徒
応募総数：78,322点／5,369校
審査件数：全応募作品のうち、都道府県の審査を経て推薦された394点（小学校147点、中学校141点、高等学校106点）
審 査：10月22日（水）中央合同庁舎5号館共用第6会議室において、後援省庁の担当官、画家のほか、全国愛鳥教育研究会および日本鳥類保護連盟関係者による審査会を開催
結 果：総裁賞／造田千帆里（香川県県立高松工芸高等学校 3年）
環境大臣賞3点、文部大臣賞3点、林野庁長官賞3点、日本鳥類保護連盟会長賞9点、入選56点

なお、上記の総裁賞をはじめ19点の入賞作品等について、次のとおり平成20年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール入賞作品展を開催した。

- 期 間：5月13日（火）～5月18日（日）
場 所：新宿御苑インフォメーションセンター アートギャラリー
内 容：総裁賞をはじめとする入賞作品ならびに過年度の総裁賞受賞作品、約30点を展示。期間中約1,200人の来場者

4. 野鳥保護に関するキャンペーン等

（1）「愛鳥週間全国一斉テグスひろい2008」

- 期 間：平成20年5月10日（日）～6月30日（月）
場 所：全国の釣りの行われている水辺（海岸、河川、湖沼池、ダムなど）
対 象：連盟会員・専門委員、釣り人、一般
結 果：・参加者：延べ502名
・実施地点：22都道府県55地点

- ・回収したもの：テグス72,318m(過去最大)、釣り針690個、おもり246個、スナップ・よりもどし177個のほか、ワーム、ウキ、ハリスどめ等釣り具およびゴミが回収された。
- ・被害鳥：3種5羽(ウミネコ3、セグロカモメ1、キアシシギ1)

(2) 「ヒナを拾わないで」

- 日 時：4月1日(日)～7月1日(日)
- 共 催：財団法人日本鳥類保護連盟、財団法人日本野鳥の会、NPO 法人
野生動物救護獣医師協会
- 後 援：環境省
- 内 容：3団体による「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンを実施し、合計10万枚のポスターを制作、配布を行った。
- 連盟としては、法人会員などの企業をはじめ団体、地方自治体の協賛を得て、28,000枚のキャンペーンポスターを制作し、都道府県、教育機関を中心に配布することにより、巣立ちヒナへの適切な対処方法について広く普及を図った。

なお、この活動をさらに広げるため、公益信託サントリー世界愛鳥基金の助成金により、普及啓発パンフレット5,000部を作成し、首都圏、近畿圏を中心に配布した。

(3) 「憲政記念館北庭園における巣箱架設行事」

- 日 時：3月18日(水)
- 場 所：憲政記念館 北庭園
- 主 催：鳥類保護議員懇話会・財団法人日本鳥類保護連盟
- 参加者：国会議員22名、千代田区立麴町小学校ワークわくクラブ34名、我孫子市心身障害者福祉作業所みずき32名その他、環境省などの関係者を含め総勢約130名が参加した。
- なお、巣箱は福祉作業所みずきの人々が制作した巣箱キットを千代田区立麴町小学校ワークわくクラブの児童が組立てたものを使用。

5. 中国トキ保護・増殖支援活動

(1) 「中国トキ保護観察団」

- 日 時：10月9日(木)～16日(木)

場 所：中国 陝西省 洋県

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟

内 容： 中国におけるトキは、野生と人工飼育を合わせて約1、000羽まで増加した（平成20年10月現在）。観察団では、野生のトキ及びねぐらのほか、平成19年に完成した寧陝県のトキ放鳥基地をはじめ、陝西トキ救護飼養センター、陝西省珍稀野生動物救護飼養研究センター、貫溪小学校などの施設を訪問し交流を深めた。

(2) 「中国トキ保護支援基金」

本年度は、中国側の要請に基づき、陝西省周至県の陝西省珍稀野生動物救護飼養研究センターに対して、トキ用カラーリング（300個）を支援した。

6. 探鳥会・自然観察会

(1) 初心者のための「てほどき野鳥ウォッチング」（中高年向け）

実施日と場所：

（一回目）11月14日（金） 新宿御苑（新宿区内藤）

（二回目）12月12日（金） 多摩川（日野市百草～多摩市関戸）

（三回目）1月16日（金） 高尾山（八王子市高尾）

内容：双眼鏡の使い方、野鳥の探しなど野鳥観察のしかたや楽しみ方。

参加人数：30名

(2) 定例観察会

月 日	場 所	内 容	参加人数
5月28日	葛西臨海公園	オオヨシキリ、シギ類など	8
6月18日	大磯海岸	アオバト、海辺の鳥	10
7月2日	富士山 御庭～奥庭	ビンズイなど高山の野鳥	20
9月2日	三番瀬	シギ、チドリなど干潟の鳥	5
11月5日	北本自然公園	里山の鳥	7
12月24日	多摩川 百草～関戸	川原の冬鳥	8
1月30日	銚子漁港	カモメの仲間、カモなど	中止
2月13日	舞岡公園	タシギ、アリスイ、里山の冬鳥	16
3月13日	多摩動物公園	カモ類、ツグミ、シロハラなど	11

(3) 「子ども愛鳥スクール」

《夏休み子ども自然体験》

日 時：8月8日（金）8：00～15：00

場 所：都民の森（東京都檜原村）

内 容：野鳥などのいきもの探しや観察、野鳥のための巣箱づくり。

参加人数：16名（幼児4名を含む）

(4) 「愛鳥エコ・ツアー ～北陸・福井編～」

日 時：1月22日（木）～23日（金）

場 所：福井県（三国鴨池・坂井平野・県立恐竜博物館など）

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟

内 容：上記予定で実施することとし、募集、PRに務めたが、参加者数が最小催行人数に達せず、実施できなかった。

7. 愛鳥懇話会

日 時：12月9日（火）

場 所：日比谷松本楼

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟

内 容：連盟総裁常陸宮殿下のご臨席のもと、河野洋平衆議院議長、江田五月参議院議長、斉藤鉄夫環境大臣をはじめ愛鳥百人委員会のメンバー、鳥類保護関係者など約100人が参加して親交を深めた。

なお、開会に先立って平成21年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの総裁賞の授与式が行われ、常陸宮殿下から受賞者の香川県立高松工芸高等学校3年の造田千帆里さんに賞状及び記念品の盾が授与された。

8. 図書・愛鳥教育教材等

(1) 図書

平成12年に増刷した「まもろう鳥みどり自然」に替わって、鳥類保護など自然環境保全をとりまく状況の変化に対応した、新しい愛鳥思想普及啓図書の発行の企画を検討するとともに、編集会議の設置作業を進めた。

また、平成14年に改訂、増補した「鳥630図鑑」替わる新たな図鑑の発行については、学識者、専門家の協力を得て編集委員会を設置し、編集方

針に基づいて企画を検討するとともに、イラストの作成に着手した。

(2) 愛鳥教育教材等

野鳥シートの新版として「鳥から知る環境ものさし」を制作するとともに、オシドリ、メジロのバードピンズを新たに制作した。

なお、既存の「身近な野鳥」「水辺の野鳥」野鳥シートおよび新規シート「身近に鳴く虫・カエル」の音声版の制作企画を進めた。

また、自然環境保全関係イベントへの積極的参加による商品紹介及び販売および自然公園ビジターセンター等の拠点や自然保護商品の通信販売を通じた商品PRと販売促進を行った。

さらに、「日本の野鳥カレンダー」については、首都圏の大手書店との委託販売の強化の他、ビジターセンター、自然関係グッズ販売店への取扱増加に務めるとともに、法人会員等の企業・団体及び個人の販売促進を行った。

9. 広報活動

(1) 機関誌「私たちの自然」

発行回数：機関誌「私たちの自然」を10回発行した。(平成20年4月号 No. 535～平成21年3月号 No. 544)

発行部数：4,600部

配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局及び教育委員会。また、広報活動の一環として各種行事において無料配布。

なお、平成20年7月に学識者、専門家及び連盟関係者、計5名で構成する編集委員会を設置し、機関誌編集の基本方針を検討、整理するとともに、平成21年度の編集テーマ、主要記事等の編集計画を作成するため、編集委員会を4回開催した。

また、平成21年度からの機関誌編集方針の検討及び内容充実の参考とするため、『8・9月合併号』において読者アンケートを実施した。

(2) ホームページ

連盟の活動、イベント、新商品販売など、野鳥に関する話題を掲載・更新を行うとともに、全体のデザインを見やすいように整理・変更したほか、リンクの表示方法や連盟のマークの表示などについて工夫をした。
また、メールニュースを12回発行した。

10. バードピア計画

人と野鳥を始めとする身近な生き物との共生の実現を目的として、都市の緑地や企業が保有する土地などのほか、住宅の庭までを含めた、様々な空間を活用した「人と野鳥たちの共生の場」づくりを推進する「バードピア計画」の普及啓発資料を作成するため、進め方、考え方の検討、資料、写真等の収集を行った。

II. 鳥類保護の調査研究に関する事業

1. 受託事業

愛鳥思想の普及啓発に関する事業、中国トキの保護増殖の支援等に関する国際協力事業、猛禽類の保護対策に関する事業及び水鳥等の野鳥保護に関する事業について、別表の15件の受託事業を実施した。

2. 請負事業

新規事業として、東京都のカラスの生息状況調査を実施したほか、猛禽類の保護等に関する管理、調査に関する事業について、別表の5件の請負事業を実施した。

3. 自主調査・研究活動

平成19年度に引き続いて（財）イオン財団の助成を受け、ワカケホンセイインコの在来生物への影響を把握するための生息状況、生態等に関する調査・研究を実施した。

また、ワカケホンセイインコ等移入鳥に関する情報収集に努めた。

Ⅲ. 組織活動に関する事業

1. 会員の拡大

「全国野鳥保護のつどい」、「新宿御苑みどりの月間の集い」、「ジャパンバードフェスティバル2008」、「第5回 自然となかよく！バードハウス展」等をはじめ、各種参加行事の機会を利用して、入会の呼びかけを行なった。

また、中高年層の入会を促進するため、平成19年度から開始した「てほどきバードウォッチング」を実施するとともに、東京近郊における自然観察会を拡充して参加者に入会促進に務めたが、平成20年度末における会員数総数は、対前年度96会員減の2,324会員となった。

2. 支部との連携

平成20年6月に開催された第7回北陸ブロック（石川県、福井県、富山県）会議に出席したほか、平成21年1月に釧路支部との打ち合わせを行い、本部、支部間の意見交換並びに交流を深め、連携強化に努めた。

また、石川県および福井県支部と連携して環境省の受託調査実施の一環として、タカの渡りに関する調査を行った。

さらに、支部所在地域の学校、NPO、グループなどの愛鳥活動を支援するため、サントリー世界愛鳥基金地域愛鳥活動助成金の活用に関して、連携して協力した。

3. 専門委員活動

前年度からの継続と新規を合わせた計138名の方に専門委員を委嘱した。

なお、委嘱にあたりアンケートを実施し、今後の活動充実に資するための情報を収集した。

また、専門委員活動の活性化を図るとともに、全国的な野鳥の生息状況を長期的に見ていくため、平成19年度から開始した野鳥モニタリングを全国92名の専門委員の参加を得て実施した。

さらに、本部・支部と専門委員との連携を深めるとともに、専門委員活動の充実に資するため、メール等による情報・意見の交換を進めた。

4. 表彰制度

寄附行為に掲げる各種事業活動及び運営にかかわる個人、法人、団体の顕著な貢献を顕彰する表彰制度を設けるため、関連団体の類似する制度の資料収集

を行った。

5. 関係団体との連携・協力

(1) 各種行事への参加等

① 2008 新宿御苑「みどりフェスタ&国立公園フェア」

日 時：4月29日（火）

場 所：新宿御苑

主 催：2008 新宿御苑みどりの月間の集い実行委員会

主 唱：環境省

活動内容： 連盟活動紹介・愛鳥教育教材等の物販・バードカービングを用いたバードウォッチング体験などを通じた来場者への愛鳥思想普及と連盟活動PR（入場者数 15,000 人）

② 第5回バードハウス展

日 時：10月4日（日）

場 所：都立神代植物公園

主 催：東京都環境局、東京コカ・コーラボトリング(株)、NPO 法人環境学習研究会

活動内容： 連盟グッズ等の物販及びパネル展示を通して活動紹介を行なった。また、使用された巣箱の展示等も行ない、巣箱を通して野鳥を身近に感じ、野鳥への興味・関心を持つ機会を提供した。（入場者数 4,300 人）

③ ジャパンバードフェスティバル 2008

日 時：11月8日（土）～9日（日）

場 所：千葉県 我孫子市

主 催：ジャパンバードフェスティバル実行委員会

活動内容： 「人と鳥の共存をめざして」を目的としたジャパンバードフェスティバルの実行委員会に参画した。

連盟愛鳥教育教材等の販売及び連盟活動紹介のパネル展示などを行ない、愛鳥思想普及啓発、会員募集活動を行った。

なお、日本バードカービング協会主催のコンテストの初級クラス最優秀作品に対して、連盟会長賞の授与を行った。

(来場者数 33,000 人)

④野鳥を知るバードカービング展

日 時：5月27日（火）～6月1日（日）

場 所：新宿御苑インフォメーションセンターアートギャラリー

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟、鳥工房「つばさ」

活動内容： 南西諸島の野鳥保護に関する普及啓発を行うため、バードカービング展示を実施した。（入場者数2,700人）

(2) 関係団体等との連携

全国愛鳥教育研究会との連携を図り、愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」における野生生物保護功労者表彰、全国野生生物保護実績発表大会の審査および愛鳥教育教材制作など、愛鳥思想普及啓発に関する事業の適切な運営に努めた。

また、鳥類保護議員懇話会と連携し、憲政記念館北庭園における巣箱架設行事を実施したほか、愛鳥百人委員会と連携して「全国野鳥保護のつどい」および「愛鳥懇話会」の適切な実施に努めた。

6. 委員会及び本部体制

公益法人制度改革に関する適切な対応を検討するとともに、連盟の経営改善に関する重要事項を検討するため、平成20年12月に理事、監事及び評議員7名で構成する「経営会議」を設置した。

また、「経営会議」における平成21年3月までの検討の内容、結果について、3月27日に開催した理事会、評議員会において報告した。